

# 愛川町

校内研究を中心とした授業改善と小中一貫教育による愛川町の子どもたちの学力向上及び家庭・地域・学校連携による基本的な生活習慣の確立を目指す

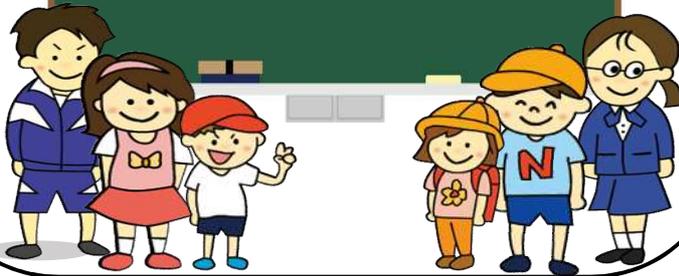
## 『学ぶ子どもたちの視点』に立って 授業づくりを行います

義務教育9年間を通して、どの教科、どの先生も共通した**学ばせ方や授業の進め方**をすることで子どもたちが見通しを持って、**主体的に学びやすい環境**をつくります。

その第一歩として取り組んでいるのが、「**愛川中原中学校区学び方カリキュラム**」の作成です。

### 「学び方カリキュラム」 各教科共通

- ① 授業のはじめに「学習のめあて」「目標」を示します。
- ② 課題をまず「自分で解決する時間」をとります。
- ③ 児童・生徒間で「話し合う時間」をとります。
- ④ 自分の考えを「発表する」機会のある授業をします。
- ⑤ 授業の最後に「学習の振り返り」をします。



## 愛川中原中学校

「主体的・対話的で深い学びの授業実践～身につけさせたい力を明確にした指導と評価の在り方～」というテーマの元に研究を進めている。取り組みの内容としては、次の①～⑤のとおりであるが、その中でも特に①②に重点を置いて校内研究を進めている。

- ① 生徒とともに進める授業改善を基本的なスタンスとし、授業課題(キーワード)生徒と共有した単元展開、授業展開に努める。また、提案授業を行うにあたり、他教科の教員も含めたグループを3つ作成し、そのグループごとで指導案検討会を最低2回実施している。
- ② 基礎・基本を踏まえ、言語活動(生徒どうしの関わり合い、高め合い)を適切に取り入れながら、引き続きこれからの学びのあり方(主体的、対話的、深い学び)に基づく実践的研究を推進していく。
- ③ 基礎・基本及び活用する力など学びの定着を目指し学校全体の取り組みの工夫・改善・充実を図る。
- ④ 通常の校内研究を広く公開し、研究活動の情報発信(広報や参加促進)とともに広い視野からの研究の充実を図る。
- ⑤ 「全国学力学習状況調査」「町学力学習調査」等の機会を通して検証と改善を図る。

## 高峰小学校

### 研究テーマ 主体的に学ぶ子の育成

自分の考えがもてる子      考えを表現できる子      学び合い高め合う子

【仮説】

問題解決のための表現する力を高めることで、考える力や学び合う力も高まり、主体的に学ぶ子の育成につながるのではないだろうか。

考える力      表現する力      学び合う力

今年度は、表現する力を軸にして研究することで視点を明確にした。「子ども自身の問いが問題になるような授業を行う」と「算数で学んだことを生活にいかす」ことなどを大切に、授業づくりを行っている。



## 中津第二小学校

### プログラミング教育の 理論・実践

3つの資質・能力を意識しながら、授業を実践しました。

#### 論理的思考力はサイクルで育む

プログラミング教育を通して育成する論理的思考力を右図のように考えている。課題解決のために必要な情報収集をし、これを細分化・抽象化・一般化・継次・分岐・繰り返しなどを考えながら情報を整理し活用。そして、自分の意図する活動を実現するために実行・検証を行い、トライアンドエラーを繰り返しつつ、見直しと改善をしていく、それでもうまいかなければ、再び新たに情報収集するというサイクルで育む。

#### 論理的思考力



#### 「3STEP」で学ぶ

低学年ではコンピュータを使わない「アンブラドプログラミング」を主に、中学年ではコンピュータ上のキャラクター等を動かす「ビジュアルプログラミング」を、高学年ではコンピュータで実際のロボット等を動かす「フィジカルプログラミング」を中心に、ステップアップを図りながら実践。

#### 「思考ツール」を活用

論理的思考力を育むために思考ツールを活用。ペンをクラゲチャート、フィッシュボーン図などのワークシートに記入したり、iPadに保存してある「思考ツール」にApplePencilで書き込んだり、アンブラドプログラミング教材の一つとして活用。



#### 情報リテラシーと情報モラルと共に

情報リテラシーや情報モラルにも取り組み、情報や情報手段を主体的に活用していくための情報活用能力全般の育成を図る。



#### プログラミングを学ぶ理由を学ぶ

なぜプログラミング教育を学ぶのかを学ばせておくことが大切。5年生では、「Jリーグエース・O」の動画を視聴。そして、自動運転で走る車や農業機械を紹介したり、無人運転の電車事故の記事から考えさせたりする授業を実施。



#### 情報リテラシー(情報活用の実践力)

情報活用能力(情報の科学的理解)

#### 情報モラル(情報社会に参画する態度)

参画する態度

学ぶ理由を知った子どもたちは主体的に取り組むようになりました。